かごしま林業普及だより

第 14号
（令和6年2月）

目　次

(1)	鹿児島地域森林整備推進会議	・・・【鹿児島指導区】	１頁
(2)	薩摩川内市率永利小学校における森林環境教育	・・・【北薩指導区】	１頁
(3)	国分小学校森林環境教育	・・・【姶良・伊佐指導区】	２頁
(4)	普通苗機械化植栽研修	・・・【大隅指導区】	２頁
(5)	ヒサカキの栽培暦	・・・【熊毛指導区】	３頁
(6)	七ツ島バイオマス発電所で視察研修	・・・【大島指導区】	３頁
(7)	地域リーダー等技術研修・交流会	・・・【普及指導部】	４頁
(8)	地域リーダー養成講座	・・・【普及指導部】	４頁

鹿児島県森林技術総合センター
普及指導部

鹿児島指導区

鹿児島地域森林整備推進会議の開催

鹿児島地域森林整備推進会議

鹿児島地域の再造林や間伐の推進を図るため，令和６年２月14日に林業事業体，市及び振興局を構成員とした森林整備推進会議（鹿児島地域未来の森林づくり推進会議）を開催しました。

会議では，今年度の森林整備（再造林・間伐等）の取組や実績見込みについての説明，令和６年度に向けた間伐及び再造林推進に関する意見交換などを行いました。

意見交換の中で，再造林の推進においては，森林法第１５条に基づく認定旗等の掲揚の取組を徹底することで他の伐採との峻別化を図ること，間伐については，間伐対象林である４～９齢級を重点的に推進することなどの意見を集約したところです。

また，今年度は鹿児島地域未来の森林づくり推進プラン（R1～R5）の最終年度を迎え，後期プランを作成する必要があることから，新たな取組として，ICT等先端技術を活用した造林・下刈り作業のスマート化の促進や間伐対象林における間伐の推進などを追記した次期プラン（案）について説明を行い，参加者の合意形成を図ったところです。

今後も，未来の森林づくり推進プランの目標達成や事業推進に向けて，管内の関係者が一丸となって取り組んでまいります。

（神志那仁･塩山英男）

伐採届旗，認定旗の掲揚

北薩指導区

薩摩川内市立永利小学校における森林環境教育

永利小学校において，森林環境の多様性や森林の働き，森林を守り育てる林業の役割などに関する学習や五感を使っての体験など森林・林業への理解を深めてもらうことを目的に，森林環境教育を行いました。

令和5年7月に木工体験（椅子づくり），10月に森林学習，伐採及び薪工場見学，11月にモルック体験，令和6年1月にシイタケ駒打ち体験を行いました。

5年生の80人が対象であったことから，クラス毎に時間を割かなければならないなど，学校側との調整に苦労しました。

最後に実施したシイタケ駒打ち体験では，「ドリルが回転する音を聞いて使うのが怖かったけど，実際使ってみると緊張したけど上手くできた」や，「シイタケ料理は苦手だけど，今日の体験をきっかけに克服したい」などの感想を話してくれました。

今回のような大規模校での実施は，何かと大変なところもありますが，森林や林業に興味を示す児童もいると強く感じたので，今後も森林環境推進事業等を活用し普及活動を継続して行きたいと思います。

（村岡英樹）

国分小学校森林環境教育

姶良･伊佐指導区

令和６年２月27日(火)に霧島市立国分小学校６年生123名を対象に森林環境教育を実施しました。

活動内容は，学校側の希望により植樹体験をメインとし，霧島市の黒石岳森林公園近辺において実施しました。

当日は天候にも恵まれ，植栽現場から遠くは霧島連山を望むことができ，生徒からは「景色が綺麗」，「眺めが良くて気持ちいい」などの声が上がっていました。

植樹体験では，コンテナ苗の説明やクワ，ディブルなどの植栽道具の説明を行った後，植樹を実施しました。

クワを使ったことのある生徒は数人いましたが，ディブルは初めて使用する道具であったため，最初は使い方に困惑しながらの作業となりましたが，後半は慣れる生徒も増え，効率良く植栽を行っていました。

生徒からは「もっと植えたい」，「初めて植栽を行ったが楽しかった」などの感想があり，活動を楽しんだ様子でありました。

植樹体験の他に森林に関する学習も同時に実施し，森林に関する知識を深めてもらいました。

今後もこのような活動を通して小中学生の森林，林業に対する意識の醸成を図っていきたいと考えています。　（鶴田正輝）

植樹体験

植樹体験

普通苗機械化植栽研修

大隅指導区

令和６年１月24日（水），曽於市末吉町で普通苗機械化植栽研修を開催しました。

現在大隅管内の民有林では，令和４年度末で約500ヘクタールの再造林が行われ，苗木本数にして約128万本の苗木が植栽されています。

このうちの約46%，約59万本は，普通苗が植栽されていますが，普通苗は，コンテナ苗と比較して１人１日あたりの植栽可能本数が少ないため，再造林の省力化，造林作業班の作業軽減を進める上でネックとなっている現状があります。

そこで今回，普通苗の植栽作業を軽減する目的で東京都に本社を置く第一合成株式会社（以下「第一合成」という。）が開発した苗木植栽機「柾樹（まさき）」のデモンストレーションを実施しました。

研修開催日は，大雪の予報もあり，実施できるか不安でしたが，天気は回復し，無事開催できました。

「柾樹」は簡単に言うと，刈払機の柄が短くなり，刃が縦に付いており，地面に刃を触れさせて掘っていくという，いわば人力耕運機のような機械です。

実際，私も操作しましたが，重さ５kgの割には軽く感じ，フォワーダーが通行した固い土壌では，山鍬より早く掘れると思った反面，刃を地面に押しつける際の振動が体に伝わるので，継続的に使用した場合，体への負担がどの程度になるかが気になりました。

第一合成も，正直発展途上の商品であり，今回の研修で頂いた様々な意見を今後の製品改良に生かしていきたいとおっしゃっていました。（岩智洋）

柾樹全景

柾樹による植穴掘り状況

ヒサカキの栽培暦

熊毛指導区

熊毛支庁では，ヒサカキの新規生産者や既存生産者の技術向上に向けて，枝物生産者養成講座（熊毛版）の開催やヒサカキの栽培暦の配布を行い技術向上支援に取り組んでおり，今回，ヒサカキの栽培暦として「ヒカサキ栽培基準」と「ヒサカキ管理事例」の二種類を作成・配布しました。

作成にあたっては，島内の中核的な枝物生産者へ意見等を伺った上で作成し，２月上旬に管内の枝物生産者や市町，ＪＡに配布しました。

どのような評価を受けるか心配しておりましたが，漏れ聞こえてきた話では，枝物生産者等から「これは良い」や「判りやすい」等の高評価を頂いているとのことで，ほっと胸をなでおろしております。

種子島では，ヒサカキ生産が拡大する傾向にあることから，今後も技術向上支援を継続して行っていきます。

ヒサカキ栽培基準

ヒサカキ管理事例

●「ヒサカキ栽培基準」

枝物生産者養成講座（熊毛版）の栽培テキストのヒサカキの中から，作型，栽培管理，施肥，防除対策などの抜粋とヒサカキの主な病害虫と薬剤を記載。

●「ヒサカキ管理事例」

初心者の生産者等から要望が多かったくくりの方法と台木仕立て，整枝・剪定について記載。

（岡﨑博樹）

七ツ島バイオマス発電所で視察研修

大島指導区

大島地域では，天然生広葉樹等の森林資源を活かし，以前から広葉樹チップの生産を主体とした林業が行われてきましたが，令和２年11月にチップ工場が閉鎖したことにより，奄美産木材の主要な販路が断たれました。

こうした中，奄美大島と徳之島には希少野生動植物が生息し，豊かで多様な自然景観を有するということなどが国際的に評価され，令和３年７月には同地域が世界自然遺産に登録されました。

このように，チップ工場の閉鎖や世界自然遺産登録による伐採規制など林業を取り巻く環境が厳しくなる中，今後の奄美産木材の活用を図るため，奄美大島の森林組合や林業事業体が中心となり，令和３年３月に奄美産木材流通促進協議会を設立し，木質バイオマス発電燃料用の原木として七ツ島バイオマス発電所（鹿児島市）への出荷に取り組んでいるところです。

こうした需要に対し原木を安定的に供給していくため，森林組合や林業事業体，市町村など関係者の参加により，令和６年１月23日に出荷先である七ツ島バイオマス発電所を訪問し，需要者が求める品質・規格等について現場を確認した上で意見交換を行いました。

当日は，同発電所の職員から施設の概要や発電の仕組み，原木の集荷状況などについて説明を受け，参加者からも多くの質問がありました。その後，施設内で原木がチップに加工される行程などを確認し，今後の取組強化に向けた意志統一が図られたところです。

普及指導員として，今後も関係者と連携を図りながら，原木を安定的に出荷できるよう支援していきたいと考えています。　（穂山浩平）

意見交換の様子

チップ加工状況

地域リーダー等技術研修・交流会

普及指導部

令和６年２月15日，かごしま県民交流センターにおいて，県内の指導林家や指導林業士・青年林業士といった地域リーダーや林業研究グループ等が集まる技術研修・交流会を実施しました。

活動事例として，種子島しきみ生産組合の石堂裕司氏から「リーフアイランド種子島を目指して」，指導林家の今吉光一氏から「林業後継者の育成について～働く側の視点に立つ～」，森林インストラクターの森山リミ氏から「林業の仕事について～森林業を盛り上げましょう～」の報告があった後，意見交換・交流会に移りました。

種子島しきみ生産組合の活動では組織体制の維持や後継者の育成，他作物との複合経営等について，今吉光一氏の活動では経営者としての心構えや若者を惹きつけるためのアイデア等について，森山リミ氏の活動では子供にどうやったら森林業に興味をもってもらえるか，などについて活発な意見交換をおこないました。特に，令和７年度開校予定の林業大学校については，会場から期待の声が上がるとともに，林業大学校の卒業生が失望しないような受け入れ側における職場環境や待遇面の改善が必要との意見も出されました。

参加者には「何年かぶりに来ました。楽しかったです」と言って笑顔で帰られる方もいらっしゃいました。参加者からいただいたアンケートを参考に，これからも参加者が元気になるような研修を企画していきたいと思います。　（片野田逸朗）

種子島しきみ生産組合

意見交換会の状況

令和５年度　地域リーダー養成講座

普及指導部

森林技術総合センターでは，意欲を持って林業に取り組んでいる若手林業従事者等を対象に，地域林業の中核となる地域リーダー（青年林業士）を育成するための養成講座を毎年実施しており，今年度は令和５年10月31日から11月２日の３日間の行程で実施し５名が受講しました。

１日目は「大径材」をテーマに，高齢級林分から大径材を伐採・出荷するまでの現場管理や流通システム，大型木材加工施設での最新機械による大径材の加工方法，新たな建築様式などを学ぶことで，川下から川上までを見通す視点を養いました。

2日目と3日目は「環境に配慮した森林整備と地域活動」をテーマに，低コスト林業と主伐再造林一貫作業に取り組む林業事業体や責任ある素材生産事業体認証制度（CRL）の3つ星取得事業体において，現場での取組状況や経営方針等について研修しました。また，これらの事業体で活躍している指導林業士や青年林業士から地域における社会活動について生の声を聞けたことは，「地域活動って何?」と不安視していた受講生にとって大きな励みになったと思います。

また，今年度は新たな試みとして，コーチングプロの外部講師による「コミュニケーションスキルアップ研修」を実施しました。研修では①笑顔であいさつ，②名前で相手を呼ぶ，③うなずく，の3点を心掛け，相手の存在を認め，自分の存在を相手に承認させることで，自分が大事にしている想いが相手に伝わることを学びました。さっそく座談会や再造林の推進などで実践してみようという雰囲気になり，今後の活躍がとても楽しみです。

本講座を修了した受講生は，今後一年以上の地域での実践活動を経て青年林業士として推薦・認定される予定です。受講生が今後，地域林業を率先して牽引していく姿を見せてくれることを期待しています。（満留良文）

現地研修状況

コミュニケーション研修